

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前短期大学 所属：ライフデザイン総合学科 名前：神殿 織江 作成日：2024年12月18日

### 1. 教育の責任

情操豊かな教養ある人格の完成を目指した学園創立の精神に基づき、専門の学芸を教授研究し、職業及び實際生活に必要な能力を育成し、社会の発展に貢献し得る人材を教育すること。

### 2. 教育の理念

学修と経験の融合を通して、他者と協力して問題解決しようとする姿勢を持ち、自分の人生を自分で切り開いていく環境適応力を身につけた学生を社会に送り出すことを目指す。そのため、アクティブラーニングを取り入れ学生の可能性を広げ、

社会との接点を持ち視野を広げる。

### 3. 教育の方法

・グループワーク、PBL：ほぼ全ての授業で、グループワーク、PBL を実施している。他者とディスカッションし、自分の考えを言語化し、他者の意見から視野を広げる。

PBL では、グループでテーマを決め、調査・発表を行う。各自担当を決め、グループ間で情報交換・進捗報告を行い、発表を行う。

グループ討議、調査、発表資料作成、発表を行うことで、協力体制、積極性、責任感を高め、自分の考えを言語化し他者にわかりやすく伝える力を向上する。教員から都度フィードバックを行い、課題解決のヒントに繋げている。

・調査・分析・発表：アンケート・インタビュー調査を取り入れた分析、発表スライドの説得性のある流れの指導。

・帰属意識、先輩・後輩間の繋がりを向上させることを目的とし、メンタープロジェクトを実施。2年生による1年間の振り返り（成功体験、失敗体験、自分達ができなかったがした方がよいポイントなど）を1年生にプレゼンテーションし交流を図る。2年生はそれにより、過去1年の振り返りから残りの1年をどう過ごすかを考えることができ、1年生は先輩の経験から短大生活に目的を持って取り組むことができる。様々な人との交流や共に行った経験が帰属意識も向上させる。

・目標管理：社会で必要とされる目標管理の考えが習慣化できることを目指す。グループワークやプロジェクトに取り組む際、目標設定し、その為にどのように行動するか（目標・戦略・戦術）を各グループで決め取り組むように指導している。それによって、目標を意識した協力体制が高まり、自分で考え動く力が伸長する。結果的に、グループの高い成果に繋がる。

・ゲストスピーカー：学外組織との関わりを通して、実社会について知見を広げることを行う。春学期・秋学期の地域貢献演習 AB でゲストスピーカーを招聘し地域との関わりに関する講義を実施した。春学期では近畿日本ツーリスト様、秋学期では泉州アグリ様による地域活性化の取組に関する講義となった。

地域貢献演習 B で神戸親和大学との共同開発授業も実施。地域貢献は自分達の小さな関わりが、地域を活性化していくことに繋がると理解できた。

・学外学修：秋学期の地域貢献演習 A では社会連携活動と共同で、伊丹市アピールプランのワンデーウォーキングのボランティアスタッフとして参加した。今年度は28名（欠席者5名）（昨年度参加者：14名）となった。

ワンデーウォーキングの事前 PR として、伊丹市にぎわい課の Instagram で初めて学生が3回に渡り、市民の参加を募る PR を行った。写真、参加を募る文章も学生が考え発信することができ、広報の一躍を担うことで当事者意識を醸成することができた。

当日は、初対面の多様な年齢の方々と一緒に、自分から積極的に関わることで成果が大きく異なることを実感し、また1つのプロジェクトを行う上で多くの関係者が関わりプログラムを検討・作成していることを学ぶ。事前にグループ目標の設定を行い、事後は各グループで成果発表を実施した。伊丹市の関係者や参加者から学生の積極的な関わりに対して高い評価を頂いた。

・PDCA（振り返り）：全てのグループプロジェクト実施・発表後、常に振り返りを行う。それにより、上手くできたことは自信に繋がり、課題に関しては次にそれを意識して行動することができる。PDCA の回数を重ねることで自己理解にも繋がる。K J 法による振り返りの可視化も行う。

・内発的動機付けによるキャリア形成：ワーク、協働作業、フィードバックを通して、自分と徹底して向き合い、自分自身の内面の興味、関心、動機付けを探ることを行い進路、キャリア形成に繋げる。

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前短期大学 所属：ライフデザイン総合学科 名前：神殿 織江 作成日：2024年12月18日

### 4. 教育の成果

授業アンケート、C-POS、授業のコメントシート

- ・グループワークが苦手な学生も人前で話すことに慣れてきたとのコメントがあった。
- ・特に地域貢献で行ったボランティアは、伊丹市関係者や参加者から高評価で、学生の自信に繋がった。
- ・期限から逆算し、すべきことの計画をたてることができるようになってきている。
- ・目標・戦略・戦術の習慣化が出来、プロジェクトに取り組む際の思考のベースとなっている。

### 5. 改善への努力と今後の目標

授業でさらにアクティブラーニングを取り入れ、他者と協力し、自ら考え行動できる力を醸成したい。

グループメンバーの構成によって、活発なグループとそうでないグループができる。どのメンバーと一緒にいてもモチベーションを高め協力できるような動機付けを行いたい。

### 【添付資料】

神戸親和大学との共同開発授業

<https://college.otemae.ac.jp/news/detail/1254>

ゲストスピーカー

<https://college.otemae.ac.jp/news/detail/1258>

<https://college.otemae.ac.jp/news/detail/1282>

いたみアピールプラン推進協議会 HP

[https://www.city.itami.lg.jp/SOSIKI/TOSHIKATSURYOKU/TOSID/ITAMI\\_APPEAL\\_PLAN/suishin\\_kyougikai/41857.html](https://www.city.itami.lg.jp/SOSIKI/TOSHIKATSURYOKU/TOSID/ITAMI_APPEAL_PLAN/suishin_kyougikai/41857.html)

短大広報のHP

<https://college.otemae.ac.jp/news/detail/1290>

<https://college.otemae.ac.jp/news/detail/1295>